

体験版

幽霊+色白+目隠れ+無口+ドスケベボディ
そんな設定盛り盛いな幽霊娘ちゃんとの
ぐちゃぐちゃ共同生活をたっぷり堪能しちゃおうっ♪



い♡ち♡ゃ♡ら♡ぶ♡エ♡ツ♡チ♡

中出し可

ドスケベ

幽霊娘憑き

無抵抗ムチムチ

訳あり格安物件、



基本CG 17 枚 差分 339 枚 総枚数 667 枚

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

【今作のヒロイン】

訳あり物件の原因である幽霊娘ちゃん

- 本名は不明、愛称はゆうちゃん
名前がないと呼びにくいので私（貴方）が付けてあげた
- 処女？ 非処女？（幽霊なのでそこらへんは不明）
最初は無反応のマグロ状態だったが、私（貴方）とエロいことをし続けた結果、色々反応してくれるようになる
舌を深く絡め合うベロキスが、かなりお気に入り
- 性格は不明だが、話しかけるとこちらに顔を向けて話をジッと聞いてくれるので、結構面倒見はいいのだろう
仲良くなると鼻や口は見せてくれるようになるが、目は見せてくれないので恥ずかしがり屋さんなのかも
- 激安訳あり物件に飛びついた私（貴方）の前に現れて、心霊現象を起こしてくるのだが……



【否定時】

ふふふ

【肯定時】

ひひひ

【通常時】

ぬぽ

※今作では作中、ヒロインは一切喋りません
その代わり、上記のように肯定時には首を縦に振り、
否定時には横に振ることで意思表示をしています
いつも通りのイチャラブものなので、深く感じたり、絶頂もします
しかしヒロインのセリフはないので、その点ご注意ください

あらすじ

私（貴方）はどこにでもいる、ごく普通の学生である

長く厳しい受験戦争を乗り越え、地方の田舎から上京し、今日から一人暮らしをスタートすることになった

目の前には、まあまあ立派なアパートが建っている

パツと見た感じ綺麗で清潔感もあり、よさそうな建物だ

ここの一室を借りて、都会での学生生活が幕をあけるのである
外観がよく立地もいいので、家賃は高額かと思いきや、

かなり……というか、物凄く安く借りることが出来た

なぜ家賃が安いのか、答えは簡単、訳あり物件だからだ

視線を感じたり、突然のラップ音、謎の手形跡、住民以外の
長い髪の毛が落ちているなど、不気味な噂が絶えない部屋らしい
そんな事故物件をなぜ選んだのか……それには理由があった

私（貴方）は大家族の長子で、下には弟妹達が沢山いるのだ
カツカツな生活を送っている両親に、家賃を工面してもらうのは
忍びない……なんとかバイト代程度で住めそうな物件をと、
必死に探し回った結果、見つけたのがこのアパートだった

こんな美味しい物件は他にはない……幽霊だろうか、
心霊現象だろうか、かかつてこいつ、住めば都にしてやるぜっ！

ただいま〜と言っても、誰も返事をしてくれるわけないか
まだ実家にいたころの癖が抜けないなあ

この部屋で生活を始めてから二週間が経った

最初の数日こそ幽霊や心霊現象に警戒をしていたのだが、
これといった出来度もなく、平穩無事に過ごせていた

きつと前の入居者さんが神経質な人だったんだろうなあ
まあ、そのおかげで俺はこうして格安で住めてるんだから、
本当にラッキーだよ……とはいえ、家に帰ってきてても、

誰もいないのがこんなにも寂しいとは思わなかった
実家だと、絶対誰かしら家にいてくれたからなあ

ふう、ちよっと切ない……そんなこと言ってる場合じゃないか
何か軽く食ってから、バイトに行かないとっ！

買っておいた総菜パンとコーヒーを急いで胃に押し込んで、
軽く身支度を整えてから、部屋を後にするのだった
そんな私（貴方）の様子をいるはずのない誰かが
ジッと見つめていることにも気付かないまま……



20, 7/11



ふいっいいお湯だなあ〜♪ 極楽極楽〜♪

実家じゃ後がつかえて、のんびり好きなだけ
お風呂に浸かるなんて出来なかったもんなあ〜

こんないい部屋をありえないくらい安い家賃で借りれて、
贅沢お風呂タイムとか、もう幽霊様々だよなあ〜はぶっっ♪

バイトの疲れを熱いお風呂で癒し、
つついっそんな軽口を
叩いた直後、突然何かの気配を強く感じた

……ねっ、猫か何かだよなあ？

自分でも驚くくらい、白々しい声が出てしまったが、
どう考えても猫ではないし、外から感じる気配でもない
同じ空間、今この風呂場に私（貴方）以外の誰かがいる
喉が一瞬でカラカラに乾き、上手く唾を飲み込めない

ぺたあっ、ぺたあっ……ぺたぺたぺたっ

ひっ！ なっ、何の音だっ？

ぺたぺたと音がする方を見ると、窓に無数の手形が付いていた
そして目の前の鏡にも同じようにぺたぺたと手形が……

うっ
うわああああっ！

私（貴方）は浴槽から転げ出て、急いでお風呂場を後にした

ぽたっ

ぽたっ
ぽたっ

ぽたっ

るたっ
るたっ

なんとかお風呂場から逃げ出すことは出来たが、

洗面所も同じような有様であった

窓や扉、鏡には無数の手形がペタペタと増え続けている

ひっ、ひっ……「ん、これが噂の心霊現象なのかっ！

遂に自分の身に降りかかってきた現象に狼狽していると、
今度はチカチカと電気が点いたり消えたりを繰り返し、
ついには明かりが消えてしまった

うああっ、マズい……これは本当にマズいやつだったっ！

るたっ
るたっ

度重なる心霊現象で身動き出来ず、じっとしていると、
暗闇に目が徐々にではあるが慣れてきた

洗面所の中心で、ぼやあつと何かが浮かび上がってきたのだ
徐々にはつきりしてきたソレは、女性の姿をしていた

ぼやあつ

うっ、うああっ……あああああつ！

流石にこれはただ事ではないと悟った私（貴方）は、
急いで洗面所を飛び出し、そのドアの前に

手あたり次第物を置き、ドアが開かないようにした

洗面所のドアを封鎖した私（貴方）は、

ベッドに飛び込み、頭までスッポリと毛布に包まった

本当なら今すぐこの部屋を出て、誰かに助けを求めたかった

しかし上京してからまだ二週間ちよつとでは、

泊めてくれる親しい友人など、いるはずもなかった

漫画喫茶で一晩過ぐすことも考えたが、お金がかかる

交番に駆け込んだら、薬か何かやってるって疑われそうだ

色々考えた結果、目の前にある毛布に包まれば、

何とかなるだろうという、安易な行動をとってしまったのだ

暖かな毛布に包まっていると、少しだけ冷静になれた

そして考える……さっき見たアしらは現実だったのだろうかと

普通に考えて心霊現象なんて、あり得るわけがない

きつと上京したての慣れない環境で色々気を張って

疲れたせいで、ありもしないものが見えたに違いない

そうだ……きつとそうだよ、ちよつと疲れてたんだ

グッスリ寝て……明日になれば、何でもない

いつもの部屋に……戻って……るはず……べつ

そう自分に言い聞かせながら私（貴方）は意識を手放した

翌朝、まず呪い殺されず、自分が生きていることに感謝をし、
恐る恐る洗面所の前に立てかけておいた物をどかし、
ドアを少し開け、息を殺し中の様子を探ってみると彼女がいた
ボタンツとドアを閉め、再びバリケードを大急ぎで作り直す

ぬぼ〜



いるよっ！ まだ全然普通にいるっ！

なんか昨日よりハツキリクツキリ見えちゃってるんですけどっ！
いや、幽霊って普通朝とか一番苦手な時間じゃないの？

朝日を浴びながら、ぬぼ〜と立ってるものじゃないでしょうっ！

一晩たつたら全てが夢という、都合のいい展開は起こらなかった
洗面所には昨日の夜見た幽霊らしき女性が立っている

どうしたものかと考えるが、有効な手立ては見つからない
おそらく前の住民も、その前の住民も同じように

色々試したり耐えたりした結果、諦めて退去したのだろう

でも、こんな好条件の物件、滅多にないだろうし……

他を探そうにも、いい物件の家賃は間違いなく高いよなあ
いやいや、それ以前に引っ越し費用なんてものはない

……って、そんなのんびり考え事してる場合じゃないかつ！
今日は一限目から受けたい講義があるんだつたっ！

洗面所の幽霊については一旦保留とした

大急ぎで朝食を済ませ、身支度を整え、

状況が好転することを願い、部屋を後にする

いつてきます……って、実家の癖が抜けずに、

つい言っちゃったけど、なんか幽霊相手に言ってるみたいだな

自分の行動に苦笑しつつ、私（貴方）は学校へ向かうのであった

ただいま〜と、いけね……また癖で言っちゃった

なかなか直らないな……って、そんな事どうでもいいや

それよりも幽霊だ、幽霊……どこ行つてくれないかなあ

講義を受けてる間も、学校後のバイトの時も、

なにかいい対処法はないかと考えたり、調べたりしたが、

これといった有効な手立ては見つからなかった

一応、お祓いという手段があるが、これまたお金がかかる
それにこついったことは、大家さんが既に試しているだろう

貧乏学生に出来ることは何も無いという結論だけが出た

うゝむ、洗濯物も溜まっちゃうし、なによりお風呂だよ

一日の終わりに熱い湯舟に入れないのは辛いよなあ

……話かけてみようかな？ 意思疎通出来たら、大進展だぞ

考えてみれば俺が寝てる間、何も悪さしてこなかったんだから、
いい幽霊かもしれない……うん、そうだ、そうだよっ！

幽霊だからって全部が全部悪いって決めつけはよくないっ！
まずは対話してみないとだな……よしっ！

念のため、右手に握れるだけの塩を握りしめ、

私（貴方）は洗面所のドアをゆっくりと開けた

少しだけ開けたドアの隙間から中の様子を窺う
そこには朝と同じく、洗面所の真中に女性が立っていた
私（貴方）は相手を刺激しないよう、ゆっくりと中に入り、
そして思い切って声をかけてみることにした

しっ、失礼します、どうもこんばんは、幽霊さん
俺……今この部屋を借りてるものなんですけど



幽霊に話しかけるといって、勇気が無謀かわからない行為を
試してみたが、相手は一切の反応を示さない

もっ、もしもし……俺の声、聞こえてますか？

えっと、うーん、どうしたらいいのかなあ

とりあえず、こっちの要望だけでも伝えてみるか

えっとね、俺は今から洗濯物を片付けたり、お風呂に入ったりしたいんだけど、君がここにいて、ちよつと……ほら、なんと言おうか、お互い気まずいでしょ？だから洗面所から移動してもらえると助かるな〜ってできればこの部屋そのものから出て行ってもらえると……あつ、いや……いつ、今は冗談、冗談だからね？

すん

そつ、そうだ……台所っ！台所なら広い、俺が料理してるところとか見れて、暇つぶしにもなるかもだし、どう、どうかな？移動……お願いしてもいいかな？

伝わっているのかどうか、反応がないのでヤキモキしていると突然彼女の姿が薄くなり始め、そしてすうっと完全に消えた

洗面所から幽霊はいなくなってくれたが、

ドアを開けて台所に移動すると、

さっきと寸分変わらぬ姿の彼女がそこに立っていた

やっぱりこの部屋からいなくなつては……くれないよね

あっ、いやっ、今は気にしないで、単なる独り言だから
それより……こちらをお願いを聞いてくれて、ありがとう



相手が幽霊とはいえ、こちらの要望に伝えてくれたのだから、
頭を下げ、礼をキチンと伝えることにした

相変わらず一切の反応がないので、少々不安だが、

とりあえず、悪い幽霊ではなさそうだし、話も通じそうだ

そう考えると一気に気が楽になった

それじゃあ、俺はこれから洗濯物の片付けと、

風呂掃除をするから、君は……このテーブルの角がいいかな
ここなら動線の邪魔にならないし、ずっと立ってても平気だよ

そういうと、足を動かす仕草など一切なかったのだが、

彼女はこちらの指定した場所にスッと移動した

ほんの少しだが意思疎通が出来たようで、ちよつと嬉しい



うんうん、そこなら問題ないから、そこにいるといいよ

えっと、俺は俺で、これまで通り生活させてもらっけど、

出来ればその……友好的な関係を築けたらなって思っんだ

……だから、これからよろしくね

また何の反応も示さなかったが、嫌な気配は感じなかったので、

一応彼女も私（貴方）を同居人と認めてくれたのだらうと

勝手に解釈し、ちよつと不思議な同棲生活を始めることにした

訳あり物件であるこの部屋に引越して二ヶ月が経つた
学校や都会での生活にも少しずつではあるが、馴染めてきた
妙な視線やラップ音、住民以外の髪の毛などの心霊現象も
一切起こらず、非常に穏やかな日常生活を送れている
……ただ一つ、台所に置いてあるテーブルの角に
ずつと立ったままの幽霊の彼女を除いてだが

この部屋に越して二週間ちよつところ、突然現れた彼女は
こちらが指定した台所のテーブルの角でずつと立ったままだ
意思疎通を何度も試してみたが、成果はあまりない
特にこれといった実害もないので、とりあえず現状維持である
むしろ彼女のおかげで激安家賃でこの部屋に住めているのだから、
彼女は幽霊ではなく、福の神か何かなのかもしれないが

大家さんにそれとなく彼女のことを聞いてみたが、
心霊現象以外については何も知らない様子であった
また学友を何人か呼び、この部屋で何度か飲み会をしてみたが、
私（貴方）以外には彼女の姿は見えておらず、
彼女も誰かに危害を加えるそぶりは一切見せなかった

というわけで、彼女との同棲生活は継続中なのである

そんなある日、バイト先での飲み会を終えて、

私（貴方）はほろ酔い状態でアパートに帰ってきた

ガチヤつと玄関ドアを開けると、そこにはいつも通り

幽霊の彼女がテーブルの角で立ったままであった

ただいま〜ゆうちゃん、お留守番〜苦労さま〜♪

特に異常はなかったでしょう？



酔いがまわっており、いつも以上に気安く彼女に声をかける

ゆうちゃんというのは、幽霊である彼女につけたあだ名である

君とか貴女と呼ぶのはそっけないので、つけてあげたのだ

相変わらずゆうちゃんは無反応だなあ〜あはは〜♪

でもまあ家に帰って、誰かがいてくれるのは本当に嬉しいよ

実家では必ず誰かしら、いてくれたからね〜

このアパートに引っ越した当初、帰ってきても

誰もいないという状況に寂しさを強く感じてしまっていた

実家が大家族だったので、人恋しくなってしまうたのだろう

そんな時、ゆうちゃんが現れ共に過ごすようになってからは、

帰れば彼女が家にいてくれるようになったので、

寂しさを意識することとはなくなったような気がする

幽霊相手に何をと思うかもだが、実際そう感じるのだ



今日の飲み会でさ、先輩と店長が悪酔いしちゃって、

そのの介抱で本当に大変だったんだよ

バイトは終わってるのに働かされてる感じで、まいっちゃった

ね、ゆうちゃんも面倒だなんて思うでしょう？

こうしてバイト先のグチをダラダラ聞いてもらうようにもなった
反応は相変わらずないが、それでも自分以外の誰かに話を
聞いてもらえると、随分気が楽になるというものだ

それでさ、別の先輩が俺の「と馬鹿にするんだよね」
『そんなんだから童貞なんだよ』ってさ、酷いと思わない？
童貞関係ないじゃん……俺だってチャンスがあればすぐにでも
童貞卒業したいって……あはは、ごめんね、こんな話、
ゆうちゃん相手に………するような内容じゃ………ゴクリッ



酔った勢いで、下世話な話をしてしまったことをすぐ謝ったが、
ゆうちゃんの胸元を見て、思わず生唾を飲み込んでしまった
幽霊だからと、これまでは意識していなかったが、
彼女を改めて見ると、スタイルがとてもよく、
それでいて身に着けているのは薄い下着一枚だけだ
ドクドクツと心音が物凄くうるさく聞こえてきた

熱に浮かされたように、私（貴方）は椅子から立ち上がり、
フラフラと彼女の前まで移動する……目の前に立っても、彼女は無反応だ



あっ、あのさ……ゆうちゃん、もしよかったらなんだけど、
おっ、おっぱい見せて貰えたらなっつて、ダメ……かな？

自分でも、幽霊相手になんと間抜けなことを聞いているのだと

少し情けなくなったが、相変わらず彼女はなんの反応も示さないまま立っていた

どうしたものかと思ったその時、 ゆうちゃんと出会ったときの記憶が蘇ってきた
最初、 彼女は洗面所に現れたが、 こちらが台所に移動して欲しいと
お願いしたところ、 それを聞き入れ、 今の定位置に移動したのだ



つまり、 ゆうちゃんは、 こちらのいう事がある程度は理解しているはずなのだ
ということとは、 質問の仕方を変えれば、 あるいはおっぱいが見れるのではないか
酔っぱらった頭にしては、 随分マシな考えがまとまってきた

ゆっ、 ゆうちゃん……おっぱい見られるの嫌だったら、 洗面所に移動して
もし……見せてもいいよっていつなり、 「そのまま」に立ってて

ドキドキしながらゆうちゃんの反応を待つが、いつまでたっても姿は消えなかった。これはつまり、おっぱいを見てもいいということなのだろうか？
それとも、「こちらの言っていることが理解出来ていないのか？」



このまま洗面所に移動しないなら、ゆうちゃんの服めくって、

おっぱい見ちゃうけど、本当にいい？ 移動するなら、今のうちだからね？

念のため、もう一度、今度は更に踏み込んだ質問をしてみるが、消える気配はない。はたして幽霊の服に触れるのかは疑問だが、「これは同意とみてよさそうである」

服、めくっちゃうからね……あっ、よかった普通に触れた
うん、ここで服に触れなかったら、元も子もないんだけどね
それじゃあ、失礼して……うっ、うわっ、凄っ

ふい

やるん♡

ゆっくりと彼女の服をめくっていく……そして徐々に露わになる柔肌
幽霊であるゆうちゃんに触れられたこと自体がビックリなのだが、
そんなこと、どうしてもよくなるくらいに魅力的な肉体が姿を現したのだ
うああ、綺麗なおっぱい……そう、それにおんこまで……ゴクリッ



本物のおっぱいとおのんこが目の前に……はっ、はあっ、はあっ

ゆうちゃんの肌はシミ一つない綺麗な、病的なまでに白く綺麗な肌であった
女体知らない私（貴方）にとって、これはもはや凶器そのものである

ふーっ、ふーっ……うっ、ごめん、ゆうちゃん、俺我慢できないっ

こんな綺麗なおっぱいとおのんこ前にして、何もしないなんて無理だっ

私（貴方）はそういうと、急いでベルトを外し、ズボンとパンツをずり降ろした
一目彼女の裸を見た時から、下半身が痛いほどに熱を持ってしまうていたのだ



はあっ、はあっ……うっっ、ごめんね、ゆうちゃんっ、くうんっ

相手が幽霊だからといって服をめくり、それをオカズにオナニーを始めるのは
流石にどうかしてると思ったが、体が勝手に動いてしまうのだ

とっ、止まらないっ、ゆうちゃんの体、綺麗すぎて……ああああっ

オナニーを覚えたばかりの頃のような貪欲さで、

彼女の体をオカズに、何度も何度もペニスを擦り続ける

しゃべり
しゃべり



ふっ、はっ、うっ、うっ……きっ、気持ちいい

ゆうちゃんの体をオカズにオナニーするの、はあ……最高だっ

もっと、もっとしごきたいっ、気持ちよくなりたいっ

我慢汁がダラダラと溢れ、息が荒くなってくる

ビリビリとした快感が背筋を駆け巡る

こんなにも夢中になってオナニーをするのは、初めてかもしれない

ゴブリッ
ゴブリッ



ぶっかけて汚すことしか考えられなくなっていた

あーっ、あーっ、うっ、うっ……まだ……
んくっ、あっ、あっ、あっ……きっ、気持ちいい
うくっ、んっ、はあっ、くっ……はあっ

どっ、どっ

ブルブル、ブルブル

目の前がチカチカするほどの長くて強い快感が徐々に収まる
一息ついてから精液でドロドロに汚れたゆうちゃんのをまじまじと見ると、
こんなにたくさん出したのかとビックリするくらいの精液が、
かかっていた

このアパートに越してきて三ヶ月が経とうとしていた

幽霊のゆうちゃんとの生活も、すっかり慣れたものだ

朝起きたらおはようと声をかけ、出かける時はいつてきます
帰ってきたらただいま、寝る前にはおやすみ

それ以外でもバイト先のグチャや、学校での他愛のない話を
一方的ではあるが彼女に話して聞かせたりしている

自分の帰りを待っていてくれる人（幽霊）がいるというのは
いいものだなと、最近しみじみ感じている

実家が大家族だというのも影響があるのだろうが、

私（貴方）は思った以上に寂しがり屋だったのかもしれない
もし彼女が現れなかったら、早々にホームシックになっていただろう
彼女のおかげで、経済的にも精神的にも助けられている感じだ

それとは別の意味で助けられている事といえば、夜の生活だ
初めて見抜きした後、崇られるかもと少し焦ったが、
相変わらずの無反応だったので、特に怒ってはいないようだ
その後も意思疎通を図ったが、嫌がる気配は感じなかったので、
二、三日に一度のペースで彼女をオカズにさせてもらっている

そして今もまた、彼女をオカズにしている最中だったりする

はあっ、はあっ……くっっ、ゆうちゃん、今日も凄く綺麗だっ

ふっ、うぐっ、んあっ、気持ちいい

ああ、手がとまらない……ゆうちゃん、ゆうちゃんっ！

もう何度も彼女の体をオカズにオナニーしているが、

見飽きることなどまったくなく、今もまた、限界が近づきつつあった

ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ



ああ、やばい……無理だっ、イツ、イツちゃうっ

ふっ、ふっ……きよ、今日もまたおっぱいにかけるからねっ

ゆうちゃん、ゆうちゃんっ、うっ、気持ちいいっ、気持ちいいよっ

ブルルッ

ズッ
ズッ

はあっ……もう本当にだめだっ、イクッ、いくいくっ

出るっ、出るっ、出るっ、出るっ、んあああっ！

うっっ……うっっ、みゅっ、はぁっっ、はぁっ

またゆうちゃんのおっぱいに、んっ……たくさんかけちゃった
ふっっ、はぁっ……うっっ、気持ちよすぎるっ

ドロミ

ギン
ギン
ミ

俺の精液でドロドロに汚れたゆうちゃんのおっぱい、

何度見ても本当にエロすぎだろ……ああ、射精したばかりなのに、

今日は全然萎えない……出来ればもう少しだけしたいなあ



……ゆうちゃん、今日はもう少しだけ付き合ってくれろ？
「こっち、こっちに一緒にきて欲しいんだ」

そう言って私（貴方）は、ゆうちゃんの手を取る

これまで彼女の服を摘まんだことはあったが、

彼女自身に触れたのはこれが初めてだった

その手はしっとりなめらかで、少しひんやりしていた

手を取って歩き出すと、彼女も同じように歩きたした

前みたいにスウッと消えたりせず、同じ歩調で移動してくれた

そのまま寝室に移動し、彼女をベッドに座らせる

これからゆうちゃんにもっとエッチな事をしようと思うんだけど
嫌だったら、前も言ったけど、洗面所に移動してね

そう伝えるが、彼女は無反応のままベッドに腰かけている

これは……エッチなことをしてもいいというお許しが出たっぽい

じゃあ、「このベッドに横になって欲しいんだけど、いいかな？」

そうお願いすると、彼女は素直に仰向けに横たわってくれた

仰向けに寝転んだゆうちゃんは微動だにせず、ジツとしている
微かに呼吸をしているのか、大きく綺麗な胸が上下に動いていた
改めて見ても、彼女の体は美術品のように美しい
この体をこのおっぱいを……今から好きに弄んでいいのだ
射精したばかりのおおんおんは、また痛いほどに勃起していた

……これからゆうちゃんの胸、触らせてもらっつよ
優しく触るつもりだけど、なにか嫌なことがあったら、
我慢しないで、洗面所に移動していいからね



私（貴方）はゆっくり指先を彼女のおっぱいに押し当てる
ぷにぷにと張りと弾力のある感触が伝わってくる

おおっ……凄い、柔らかいのに張りがあって

なんだかずっと触っていたくなるような感じだ

ぷにぷに

まだ指先でちよつと触っただけだが、

このおっぱいは絶対に揉みごたえ抜群だと確信した

今すぐに揉みくちやにしたい衝動をどうにか抑え、

今度は乳首を触ってみることにする

指先で撫でるように優しく乳首を触ってみる
ゆうちゃんは相変わらず無反応だが、姿を消していないので、
嫌なことをされているとの認識はなさそうだ
くにくにと弄り続けていると、乳首が固く盛り上がった

くにくにく

おおつ、乳首立ってきた……ううむ、エロい
ちゃんと俺の指に反応してくれるんだ
これは……もう少し試してみる価値ありそうだな

ゆうちゃんの乳首が固くなった事に気をよくした私（貴方）は、
両方の乳首を少しだけ力を入れて摘まみ、
スリスリ、さわさわと摘まんで刺激を与えてみた
するとこれまで無反応だった彼女の体が一瞬ピクンと震えたのだ

ピクンッ

スリッ
スリッ

さわ
さわ

あっ、ゆうちゃん今、ピクンと体震えたよね？

乳首刺激されるの、気持ちよかったのかな

ゆうちゃんが反応するの見て、なんかちよつと嬉しいかも

今度は大胆に、胸全体を揉んでみることにした
もちろん力加減は調整して、出来るだけ優しく慎重に揉む
うわ、ゆうちゃんのおっぱい、やばっ……指が沈むっ
でも弾力があって、少しひんやりしてて、揉み心地がいいなあ
こんなの、ずっと揉んでいたくなっちゃうよ

むいっ
むいっ

びく

モ
モ
モ

夢中になって揉んでいると、彼女も気持ちいいのが、
びくっ、びくっときより肩を震わせて反応する
それが嬉しくて、胸を揉むのが止められなくなってしまう

先ほどぶっかけた精液がヌルヌルとおっぱいに塗り広げられ、
テラテラ光沢を帯びて、妖艶さを増す

これを狙っていたのだ……このトロトロヌルヌルのおっぱいに、
絶対に気持ちいいに決まっている
お〇ん〇んを挟んで擦ったら、

もみもみ
もみもみ

ぶるる

ギンギン
ギンギン

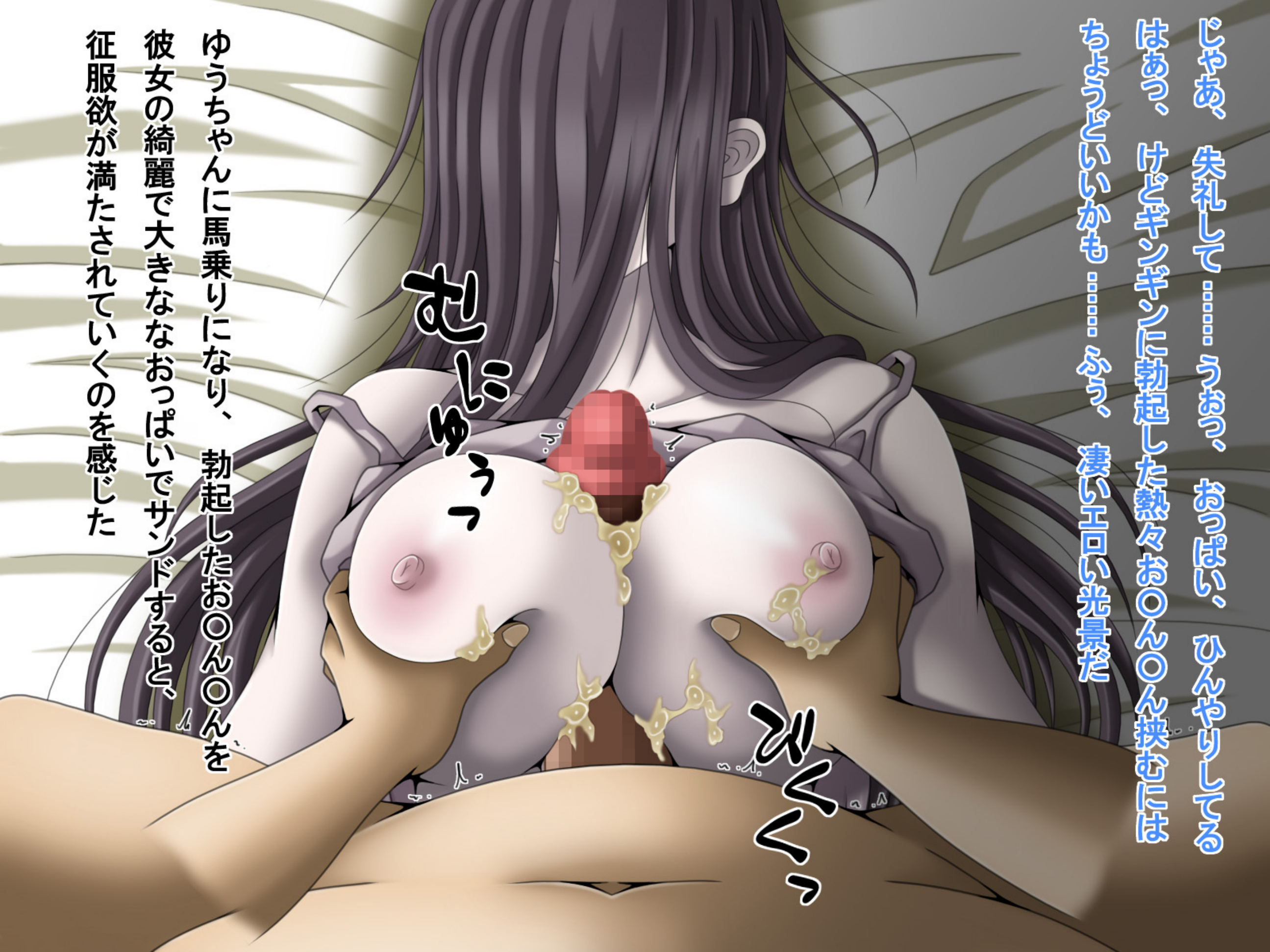
はあっ、ふっふっ……よう、よし、こんなもんでいいだろう
うっっ、もう我慢の限界だ……興奮しすぎて股間が痛い
ゆうちゃん、ちよっとおっぱい、使わせてもらっからね

じゃあ、失礼して……うおっ、おっぱい、ひんやりしてる
はあっ、けどギンギンに勃起した熱々おのんの挟むには
ちょうどいいかも……ふう、凄いエロい光景だ

むい
むい
っ

ぐ
ぐ
ぐ

ゆうちゃんに馬乗りになり、勃起したおのんの
彼女の綺麗で大きなおっぱいでサンドすると、
征服欲が満たされていくのを感じた



ローション代わりの精液をおち○ち○に馴染ませるため、
軽く胸を持ち上げて、擦り合わせてみたところ、
ゾクゾクツと背筋に快感の電気信号が走り抜けた

ぬちゅっ
ぬちゅっ

ブルッ

うあっ……やばっ、これは、ちよつと想像以上かも
よいしょっ、んしょっ……くうっ、はあっ
まだちよつと動かしただけなのに、もう気持ちいいっ

くうっ……はうっ、んしゅっ、よいしゅっ

こっ、これだけ馴染ませておけばもう、大丈夫だよな
ふうっ、ふうっ、というか……こっちがもう我慢の限界だっ

思いっきり腰振って、はあっ、気持ちよくなりたいう

ク
チ
ッ
ヨ

グチヨグチヨと卑猥な音を立てていやらしく形をかえる

ゆうちゃんのおっぱい……それに挟まれた自分のお○ん○ん
そのエロすぎる光景と、これから得られるであろう

快感への期待で、私（貴方）の呼吸は荒くなっていた

ごめん、ゆうちゃん……俺、もう限界だっ
おっぱい、使わせてもらっからね……んあっ、はあっ
うっっ……おおう、やばっ、きっ、気持ちいいっ！

お、お、お、お、お

ウ
ク
ク
ツ

トロトロニユルニユルになった彼女のおっぱいの間を
ギンギンに勃起したお○ん○んが前後に動く
カリ首に強烈な刺激が伝わり、その度に背筋がビクツと震えた

ふっ、ふっ、ふっ……うぐっ、これ本当にヤバッ
ゆうちゃんのおっぱい、はあっ……きっ、気持ちよすぎるっ
こんなの一回出してなかったら、即イッちゃってたって

がく
がく

ヌチュッ
ヌチュッ

ひんやりもちもちおっぱい相手に私（貴方）は、
夢中になって腰を振り続けたが、ゆうちゃんは無反応のままだ
姿を消さないという事は、この行為は彼女にとって
許容範囲内だと判断し、さらに腰の動きを加速させていく

うぐっ……腰っ、腰振るの止まらないっ
ゆうちゃんのおっぱい、はあっ、凄っ、凄すぎるよう、ああっ
だっ、だめだ……このままだとまたすぐイッちゃうっ
ふっふっふっ、でも腰振るの止められないっ

ぐちゃぐちゃ

ブルブル

腰を振れば振るほど気持ちよさが倍増していくようだった

いや、実際倍増しているのだろう……魔性のおっぱいである

こうなっちゃってはもう止められない

後はもう、気持ちよく射精するしかないのだ

ゆうちゃんへの配慮を忘れたわけではないが、射精欲に
駆られた体が勝手に動き、力を込めておっぱいを寄せてしまう
綺麗で大きな彼女の胸は、今はもう私（貴方）の射精を
促す為のオナホールと化していた

おぎゃっ

ぐっぐっ

1pチュッ

1pチュッ

1っ、1めんね、ゆうちゃん、こんな乱暴に……ああっ

でも気持ちよくて、とまらないっ、やばい、やばいっ

はあっ、んっっ……くっっ、こんなの耐えられないって

ふっっ、ふっっ、ふっっ……ゆうちゃん、ゆうちゃんっ！

はあっ、はあっ……うっ、んぐっ

くみっ、あっ、あっ、だめっ、だめだあっ！

もっとおっぱい堪能してたいのに、体が言うこと聞かないっ

ぎゅっ
ぎゅっ

ザッ
ザッ

ふうっ……はっ、はっ、はあっ、くぐぐぐっ

ああ、もう無理っ……がっ、我慢できないっ！

このまま思いつきり腰振って、また沢山出すからねっ！

そう彼女に告げると、更に腰の動きを加速させた

ふっ、ふっ、ふっ……はあっ、はあっ、はあっ
「のまま、うぐっ……」っ、「のまま出すからなっ
俺の精液で、またゆうちゃんのことを汚してやるっ！

メチョ
メチョ

ぶる
ぶる

あゝもう本当に無理っ……イクッ、イツちやいそっだっ
うううっ、ゆうちゃんのおっぱいに精液搾り取られるっ
ああっ、ゆうちゃんっ、ゆうちゃんっ……くううっ

荒い息と血走った眼をしながら、私（貴方）は腰を振り続けた

はあっ、はあっ、はあっ………うっうっう

いくっ、いくっ！ ゆうちゃん、また出すからなっ
はああっ、出るよう、精液出ちゃっ、うっうっく

はあっ、はあっ、はあっ………うっうっう

はあっ、はあっ、はあっ………うっうっう

はあっ、はあっ、はあっ………うっうっう

はあっ、はあっ、はあっ………うっうっう

うっ、うっうっ……まだ、まだ出るっ、気持ちいっ
全部、全部ゆうちゃんのおっぱいで搾り取って……ぐっ
んっ、あっ、あっ……はぐっうっ

どろろ

やん

おっぱい、おっぱい

はっっ、はっっ、はっっ……もっ、もう流石に出ないや

うわあ、ゆうちゃんの顔に大量の精液が……エロッ！

精液で顔も胸もドロドロのゆうちゃん、マジでエロすぎだよ

二回出した直後でなきや、また腰振り始めたかも

はあ、それにしても本当にゆうちゃんのおっぱい、最高だなあ
「うっやっていつまでも揉んでいられる……っって、はっ！
「うっ、うめんっ……それどころじゃなかったね
今すぐ綺麗にするから、ちょっと待っててっ！

ドロッ

もみもみ

ブルッ

結局ゆうちゃんは姿を消さず、パイズリに付き合ってくれた
今後をお願いすれば、パイズリしてもらえるのだろうか？
などと大量に射精した直後なのに、もう次の事を考えながら、
彼女の髪と胸にぶっかけた精液を綺麗に掃除するのであった

はあ、それにしても本当にゆうちゃんのおっぱい、最高だなあ
「うっやっていつまでも揉んでいられる……って、はっ！
「うっ、うめんっ……それどころじゃなかったね
今すぐ綺麗にするから、ちょっと待っててっ！

ドロッ

もみ、もみ

ブルルッ

結局ゆうちゃんは姿を消さず、パイズリに付き合ってくれ
今後お願いすれば、パイズリしてもらえのだろうか？
などと大量に射精した直後なのに、もう次の事を考えなが、
彼女の髪と胸にぶっつけた精液を綺麗に掃除するのであった
……本編へ続く